

題：「オレ、オマエ、ヨメする！いいな！」長身野蠻オークさんに攫われた僕が、紆余曲折あってイチャラブ愛され夫婦になる話

はじめに、声優様へ、本作でこだわりたい特徴的な発音について

オークのセリフの内、黄色で網掛けしてある「フンッ」という節は、オーク特有の唸り声ということにしたいです。鼻から勢いよく息を出しながら、低く喉を鳴らすような感じが理想です。咳払いや、いわゆるがなり声の要領です。喉に負担がかかる発音方法だと思うので、必要に応じ追加料金の請求等を行ってください。また、難しそうならその旨お伝えください。

### キャラクター(追加点赤字)

#### ○オークさん(ヒロイン)

自称、世界一頭のいいオーク。オークなので名前はない。人間でいうと二十代くらいの若いメス。主人公との身長差が20cmを超えるほどの長身だが、メスのオークでは平均的。頭がいいというのは本当のようで、本来言葉を持たない魔物でありながら、捕虜にした人間から(無理やり)学んだカタコトの人間語を使っている。一人称は「オレ」。人間のことは、弱いことと、オークと子供を作れることくらいしか知らない。たまたま押し入った貴族の家であなたに一目ぼれし、一方的に「ヨメ」にしてしまう。性行為の経験はないが、オークはそのあたりオープンなはずです。べきことはわかっている。妊娠率が低い。食欲と性欲が繋がっている

ため、性行為の際に夥しい量の唾液が出たり、空腹の際にムラムラしたりする。  
また、オークは相性のいいオスと交尾する際、息ができなくなるほど激しく絶頂  
することで知られている。前戯を理解できず、膣内射精以外無駄だと思っている。  
頭がいいといってもオークなので、基本は魔物としての本能と行動原理に忠実だ  
が、並みのオークよりも話がわかり、「ヨメ」をいたわったり、「ヨメ」の幸せと  
自分の欲望との間で葛藤したりするなど、人間味のある姿も見せる。

声優様へ かつこいい系の低音ボイスをお願いします。王子様というよりも、女  
戦士とか、蛮族といったガサツな感じです。カタコトではありますが、特別外国  
人っぽくとか、ただたどしく読む必要はございません。ただ、息の荒い獣感を出  
したいため、読点ごとに小さく息継ぎするような話し方をお願いします。また言

動が子供っぽいところがありますが、彼女は成熟した大人ですので、あくまで大  
人の声でお願いします。  
トラック5で、主人公の表情を真似しはじめるまでは、

彼女の中に表情の概念がほぼないという設定なので、心情を表すト書きはありま  
すが、その間はほぼ無表情の体でお願いします。

○あなた(主人公、リスナー)

とある国を牛耳る有力者の御曹司。男性の若者。少なくともオークさんから見て、  
超美男子。周囲からの期待や、勉強や武術の稽古に嫌気がさしていたところ、オ  
ークさんに攫われる。涙もろいが、訓練のおかげか判断力はあるほうで、オーク  
さんとも積極的にコミュニケーションをとろうとする。また、先天的に免疫力が

高く、人間が連れてこられればもって数週間といわれるオークの不衛生な住環境にあっても耐えられる。

はじめは、突然さらわれたので困惑し悲しんでいたが、トラック4でオークさんに助けられてからは、優しいオークさんの「ヨメ」として、人里離れて生活するのも悪くないと思っている。

実は臭いフェチの気があり、オークさんの魔物特有の体臭や、肉食動物のような独特の口臭についても、最初は思わず顔を背けたが今ではそれらを含めて大好き。

#### ○教育係のメイド

良家のメイド長を務める、妙齢の女性。主人(大だんな様)からの直々の命を受け、あなたの教育係としていろいろと管理している。

優しい性格で、一人息子を後継ぎにするため厳しい教育を施すよう命じる主人に對し、あなたには健全でのびのび育てほしいと思っており、遊ぶ時間も惜しんで勉強や鍛錬をさせられるあなたの境遇を少なからず憐れんでいるが、主人に逆らうわけにはいかないので、心を鬼にして仕方なく従っている。

教育の際はむやみに怒ったり叱ったりせず、共感を示しつつも諭すように諫めるタイプ。

知能があらうとなかろうと、人間以外は大嫌い。

声優様へ オークさんと対照的な、知的な上品保母さんのボイスでお願いします。

トラック1 (導入、ここだけ一人二役でお願いします)

あらすじ…あなたは良家の御曹司。しかしそれゆえ、勉学、武術、普段の作法まで、とても厳しい教育を受けています。嫌気がさしますが、メイドも親も話を聞いてくれません。悩んでいたところ泣きっ面に蜂とばかり、なんと魔物の襲撃が！世にも珍しい、人間語を話すメスのオークです！

【位置…正面やや右 距離…中くらい(小さなテーブルを挟んで)】

(優しく声をかける)

メイド  
お坊ち<sup>ぼっ</sup>やま、おやつはお済みでしょうか。

……それはよろしかった。また今度用意させましょう。お皿をお下げいたしますね。

SE …食器を集めて持ち上げる音

メイド  
さつ、お坊ちやま。この後は医学のお勉強。クライン先生がお部屋でお待ちです。

その後は政治、兵法、歴史、数学。

終わりましたら、ブラウン師範におつきして剣術のお稽古です。

ささ、お早く。ご準備なさって。

(主人公「いやだ」)

(上品に驚く。)

メイド  
……まあっ、嫌、ですって？

(不安、憐みを表す小さなため息)

メイド  
はあ……

SE ..近づいてくる衣擦れ音

【位置…正面 距離…やや近(座った主人公に高さを合わせる)】

(少し困った感じを残しつつ、語気をやや強めていさめるように。)

メイド

…お坊ちやま。あなた様はこの家の次期当主となられるお方、

大だんな様もたいそうご期待を寄せておいでです。

わたくしも、だんな様の唯一の嫡出子であるお坊ちやまを、

文武兼ね備えた一人前の男性に育て上げるようにと、

教育係として仰せつかっているのです……。

(主人公に理解と憐みを示すが、仕方がないからこらえてくれと哀願)

メイド

…ええ、ええ、そうでしょう……。

嫌だなんて初めておっしゃったけれど、今までずっと我慢してらしたんでしょう？

お坊ちやまもお年頃、そのようにおっしゃる気持ちもわかります……。

…ですが、大だんな様と奥様、わたくし、この家のみなの方だと思いいになって――

SE ..カンカンカン、という非常警報の鐘

【位置…正面 距離…中くらい(立ち上がり、手が届くくらいの距離)】

(突然の非常警報に焦って、キョロキョロしながら)

メイド

っ!? な、何事です!? この鐘は……侵入者!? ど、どうしましょ、どうしましょ……!!

(こちらを向いて)

メイド ……！ お、お坊ちゃまつ！ お早く！ こちらのほうへ――

(オークが突入)

SE ..レンガ造りの壁が破壊される音

(メイドが前屈みに転び、巻き込まれる形で主人公も椅子から落ちる)

【メイド位置…正面から右 距離…中から近(主人公に覆いかぶさるように)】

メイド きゃああつ！

SE ..転ぶ音

SE ..遠くの方でパニックになったメイドたちの声(ここから)

【オーク位置…正面やや左から正面に次第に移動。主人公から見て右を向いて 距離…遠】

(威圧的な吼え声)

オーク フンンッ！

(自分の存在を誇示するように。まだこちらには気づかない)

オーク オレ、世界イチ頭いいオーク。肉、よこせ。魚、よこせ。キラキラ、よこせーッ！

SE ..遠くの方でパニックになったメイドたちの声(フェードアウト、ここまで)

【メイド位置…右 距離…近】

(オークに気づく)

メイド ……!!

メイド

(怯えて掠れた声で、思わず手を口で覆いながら)

ま、魔物……！ どうして、人間の、言葉を……!?

【オーク位置…正面 距離…遠】

(満足げな唸り声)

オーク

フンッ……。

(キョロキョロしながら)

もう人間いない？ フン。

(言いかけて、こちらに気づく)

……キラキラ、どこある……ん？ ……！

(主人公が好みだったので、嬉しそうに)

……おお……。おおっ！

SE …近づいてくる、ドスドスというような重い足音(ここから)

【オーク位置…正面 距離…遠からやや近(駆け寄ってくる)】

(興奮ぎみな呼吸音。鼻息多め)

オーク

ふんすつ、ふんすつ……

SE …近づいてくる、ドスドスというような重い足音(ここまで)

(いっ！まで)

【オーク位置…正面 距離…やや近から近】

(興奮した唸り声。メイドを押しつける)

オーク  
フンッ！ どけっ！

【メイド位置…右 距離…近から中(押しのけられ地面を転がる)】

メイド  
ああっ！ ぐ……っ、お坊ちやま……っ……！

SE ..強く肩あたりを掴む音

(オーク、鼻息荒くウキウキで。)

オーク  
いい！ フンッ…… オマエ、いいオス！ フンッ！ オマエ、オレの！ 一緒に来る！

ヨメする！ いいな！

(メイド、まさかの言動に、恐怖よりも嫌悪感が勝る)

メイド  
何て言ったの……？ よ、嫁ですって!?

けっ、け、汚<sup>けが</sup>らしいっ！ 魔物め！ 若様から離れなさいっ!!

(別の方を向いて、衛兵を呼ぶ)

……っ！ 衛兵！ 衛兵はまだなのっ!? この魔物を早く殺しておしまいっ！

(オーク、つまらなさそうに)

オーク  
エイハイ？ ……ああ、ヨロイ。 フン、ヨロイもうない。 オレ殴る、ヨロイ死ぬ。

殴る、死ぬ、殴る、死ぬ。 つまらない。 フンッ。



（メイド、衛兵が皆殺しと知って一気に恐怖。）

メイド

え……？　もうない、って、まさか、あ、あああ、そ、そんな――

（オークに睨まれ、息を詰まらせる）

ひいつ……！

（オーク、諭すように語りかける）

【メイドの方(右)を向いて】

オーク

フンッ。弱いやつ殴るつまらない。だから、オマエ邪魔しない、オレ殴らない。

でも、オレこれ貰う邪魔、みんな殴る。いいな。

（メイド、パニック。必死で慈悲を乞う）

メイド

……！　そ、それだけはっ！　私はどうなっても構いません！

肉も魚も、キ、キラキラも、全部あげますからっ！

だからお坊ちやまだけは、その人だけは見逃してください！

（オーク、突っぱねるように拒否）

オーク

フン！　いらない！　オレこれ貰う！　ヨメする決めた！

（オーク、唸り声と共に主人公を抱えて走り出す）

フンッ！

SE .. 主人公が持ち上げられる音

SE ..ドスドスと走る足音(ここから)

【メイド位置..正面 距離..中から遠(だんだん離れていく)】

メイド  
ああそんな！ お坊ちやまつ！ 若様あーッ!!

SE ..ドスドスと走る足音(フェードアウト、ここまで)

○トラック1終了

トラック2 (家に連れ込まれて顔舐め、ディープキス、無理やり騎乗位。ここからオークのみ)

あらずじ..そのままオークさんの家まで連れてこられてしまったあなた。我慢が限界に達したオークさんによって、唾液まみれディープキスののち騎乗位逆レ○プされてしまいま  
す！ 発情した怪力オークさんを、キスで腰の抜けたあなたは止めることができません。

(このトラックでは、まだ性欲100%で動いているので、主人公のことはそれほど気にかけない)

【位置..正面 距離..やや近から中(投げ飛ばされる)】

(主人公を投げ飛ばす)

フンッ.....!

SE ..草むしりに投げ飛ばされる音、オークさんにのしかられる音(仮)

【位置..正面 距離..中から近(ゆっくりとのしかかり、顔を近づける)】

【ここから、興奮状態。常に息を荒めに。「フーツ」は、鼻・口半々くらいの興奮した息で】

(早速舐め回そうとするが押し返される)

フーツ、フーツ.....れえっ.....んっむっ.....なんで.....れえ、んむあ.....なんで顔押すっ.....!

(主人公「食べないで.....」)

.....? 「食べ、ないで」.....?

(鼻で笑うような唸り声)

フン、食べるしない。 コトバわかる?

（少し優しい声色）

……オマエ、ヨメ。食いモノ違う。……そうだ。

（主人公「じゃあ何するの」）

（さらに興奮して）

何する？ **フン**！ 交尾！ フーツ……ヨメ交尾する。いいな？

（主人公さらに抵抗）

（しびれを切らして。あまり大声は出さない）

**フン**。 れえ……んむあ、ツ、やめろ！

SE .. 腕をむしろに押さえつけられる音

（もう我慢できない、というように。怒ってはいない）

フーツ……！ オレ、オマエヨメする、言<sup>い</sup>った！ 交尾する言<sup>い</sup>ったっ……！

（鼻息交じりの顔舐め、ここから）

【頬あたりを舐める。左右各一回】

れえ……っ……れろお……っ……

【顔舐め・左】

フーツ、れろっ、れろっ、れろっ……

【顔舐め・右】

フーツ……、ぺろぺろぺろ……

（顔舐めここまで。一旦一息つく）

【位置…正面 距離…やや近(一旦正面に居直る)】

(品定めするように主人公を眺め……)

フーツ……。フーツ――

(素早く、手を離し、顔を抑え、ディープキスへ)

【後頭部を掴む(手で、左耳から後頭部にかけて前から後ろへ撫でること表現)】

(強くたくましく少し優しく)

【ねっとりディープキスここから】

(大量の唾液を、啜ることなく主人公の口に垂れ流しながら)

んむ……。！にゆるっ、にゆるにゆらにゆられろれろ……。れはっ、

はむ、にゆるにゆるっ、んふーっ……

ん、れるれるる、にゆるれろろ、にゆるる……。にゆはっ

【ディープキスここまで】

(後頭部を掴んだ手を離す)

【位置…正面 距離…近】

(恍惚そうな唸り声。主人公の顔を眺めながら)

フンン……。

(「わかった？」の答えは待たない)

……ヨメ、もう大人しい。交尾するわかった？

【位置…正面 距離 近からやや近(一度上体を起こす)】

(主人公の股間を少し嬉しそうにまさぐる)

ん……。ここ、大きい。交尾、準備いい……フーツ、フーツ……

どうした……カラダ、動かない？ **フン**、いい。オレ、オマエ裸する。

(人間の服が複雑すぎて脱がせない)

フーツ、フーツ……。……。

んん……。？ ううん……。

(「ああもうっ！」というように。怖くなり過ぎない程度)

……ああッ！ 人間、服難しい！ いらない！ ……っ！

SE .. 服を破る音

(両手で交互にビリッビリッと服を破く)

**フンッ！** **フンン！** **フン！**

すぐ、服、やるっ！ 服、オーク、同じ、しろっ！ いい、なっ！ **フンッ！**

(一旦一息ついて仕切り直す)

はっ……。ふう。 **フンッ**……。やっと、邪魔もうない。オレ、すごく待った……。！ フーツ……。！

……。いくぞっ……。！

【騎乗位、ゆっくり挿入】

(熱い風呂に入るときのような、ゆるめの「あ」「お」で)

ん……。っあ、あ……。はああ……。っ、フーツ……

(相性最高の主人公と繋がり、即絶頂へ)

お、おおっ、おっっ……っ♡!!

(息ができないほどの絶頂感。たまらずこちらに倒れ込みながら)

かはっ……♡ん、っ……!……っ……♡!

ぐ……!……っあ……っ……♡つく、んお、お……っ……♡

【位置…正面から右 距離…やや近から近(上体を倒し、顔をリスナーのその横へ)】

(気持ちよさで息絶え絶えになりながら)

っ、いいっ……気持ち、いいっ……!……ひゅっ、う……♡

(「オレの○○」と続きを匂わせる感じで)

やっ、やっぱり、オマエっ、オレの……っ!

(大きな波が過ぎる。震えた熱いため息)

ん、んんん……っ……♡……っ、はあ、はあ……フーンッ……はあ……

【そのままの姿勢で遅いピストン……から。】

(「……」「」「♡」で区切った間が一突きの目安です。BPMでいうと30から40を想定。)

(オークさん、強いメスの喘ぎ声。)

ふっ……ん……はっ……はああ……お……おお……フンン……♡

オレの、中……<sup>なか</sup>気持ちいい……んんっ……っはあ……っお……おお……♡

オレっ……この、気持ち……初めてっ……っ……あっ……フーツ……♡

はあっ、っはあ……ん、おお……♡ふっ、ん……う♡っああ……はあ、はあ……

【位置…正面 距離…近(顔を正面に)】

(ピストンを続けながら話す)

(主人公の抵抗をわざとらしく無視しながら)

フン……あん？……なんだ？んっ……わからない……♡もっと、っ……わかる言葉、言え♡

【ピストン一旦停止】

【再び唾液垂れ流しのディープキスここから】

(「黙れ」は、「うるさい口だな♡」くらいの感じで)

……んん、うるさい……はむ、じゅるれっ、黙れ……んむっ♡にゅるにゅる……

(中で主人公のモノがびくと跳ねるのを感じて)

にゅる、れろれろれろ……ん、んんっ……♡フーッ……れるれるれる……ん、む♡  
にゅろにゅろ……にゅぱっ……れえ……

(主人公が唾液を吐き出そうとする。)

(吐き出すのを阻止。 空気が入った唾液が音を立てる)

ん、ダメ。 飲め♡はぶっ、じゅぶじゅぶ、ぐぶ、べるべる……♡れ……っ、  
れぶっ、にりゅにりゅにりゅ……ぐじゅぐじゅぐじゅぐじゅ……♡

うれええ……♡

【キス(っ)まで】

(唾液をすすする。 満足げな唸り声のあと、ピストン再開)



じゅるる、**フン**ン……♡

【中くらいの速度のピストンここから。】

(BPM ぶふうと50から60あたりを想定)

はあああ、っあ……♡ 動く早い、もっと、気持ちいい♡ ほおっ、おお……！

【位置…正面から左 距離…近 (ふたたび主人公に抱きつく形)】

っふ、**フン**ン……。んおっ、おお……♡ ふっ、ふっ……っん……♡ ふう、ふう……

はあっ、お、んあ、はあ……んっ？……

(主人公、苦しそうにしている)

(すでに精いっぱい加減していると伝える)

苦しい、我慢し、ろっ♡っ……オレ、人間、弱い、知ってる……！

だから、チカラ弱い、してるっ……！ オレ、がん、ばるっ♡

だから、オマエ、我慢、しろっ♡っお……

【絶頂に向かう。ピストン速度を少しずつ早める】

(声は裏返ったりせず、多少高くはなっても低いままで)

おおっ、お、ん、んっ、ふっ、ふっ、はっ、はっ、あ、っあ♡

【位置…正面 距離…近(上体を少し起こし、鼻が触れる距離で)】

はあ、はあ、お、来るっ、大きい、っ、気持ち、いい、また、来るっ♡

くっ♡ っん、はっ、はっ、ふ、ふっ、んん♡♡

ん……「出る」？ はっ、はっ♡ ふっ、ふう……♡

(とびきりメス全開、セクシーに有声囁き)

出せ♡

【思い切り奥まで挿入したのち、射精と同時に絶頂】

(少しのけぞる。息を吸い込み、恍惚の唸り声)

ん、おっっ……!!♡っ……!!♡……っ……っひゅーっ……**フンンン**……♡

(のけ反った上体を戻し、呼吸を整える)

はっ……っ、はあああ♡フーツ……フーツ……♡

(有声囁きいっから)

……オーク子供作る難しい。だから、明日また交尾する。その後も交尾する。

交尾して、交尾して、交尾だっ！いいな？♡

(いっいまで)

○トラック2終了

トラック3（その日の夜更けのエロなしパート。故郷を想い泣く主人公と、涙を知らないオーク）

あらずじ..未だ状況が呑み込めていなかったあなた。夜更けになって、今まで起こったことや、オークさんの言っていたことを考えてみます。自分は攫われてしまったのだ、もう故郷には帰れず、このまま死んでしまうかもしれない。そんなことがだんだんわかってきて、あなたは座ったまま眠っているオークさんの横でしくしくと泣き出してしまい……。

【位置：右 距離：中（主人公がむしろで寝ている横で座って眠っていた）】

（主人公のすすり泣きに気づいて起きる）

……ん、んん……。……？

なんだ……？

【位置：正面 距離：やや近（覗き込んでくる）】

（主人公の顔を覗き込む。寝起きで）

ヨメ。どうした……？……変な声。腹痛い？

（主人公「違う……」）

（泣くということを知らないのでピンとこない唸り声）

……違う？ フンン……

（寝起きここまで）

（噂に聞いた、人間の目から出るうまい汁が、今まさに主人公の目から出ていることに気づく）

お。これ……。

【近寄って、顔舐め・右】

べろん……。

【元の位置へ】

（舌鼓を打つ）

ちやつちやつ……

（少し興奮ぎみで。ここは性欲でなく食欲）

フン……うまい。塩だ。人間、目玉うまい汁出す、本当だ……！

【顔舐め・左】

れえ〜っ……うん、うまい。

【顔舐め・右】

ぺろ、ぺろ……。ん？汁もうない。

【元の位置へ】

おい、うまい汁もつとよこせ。もつと出すどうする？

（主人公、これは涙といって、悲しいから出るのだと言う）

（一瞬意味がわからず困惑）

ナミ、ダ？そうか、涙！涙、もつとよこ——えっ？

カナシイ？悲しい、だから涙出る？

【位置…正面 距離…近（顔をいきなり近づける）】

（意味を理解。不本意なので焦る）

っ!? ヨメ、悲しい!? オレ、ヨメ悲しい嫌だ！なんで悲しい？

（主人公、家に帰れないからだと言う）

（困惑しながら主張。考え込むような唸り声）

家、帰れない……？ 家ここ。オマエ、オレ、一緒帰る。だから、悲しくない。

……前の、家……あの大きい家？ あれ、帰る嬉しい？ 帰りたい？ フン……

【位置…正面、やや左右 距離…中から遠（独り言）】

（葛藤と混乱で部屋の中をぐるぐる。真剣に考える）

うう……やっぱり、人間ヘン……。もう家じゃない家、帰りたい？ わからない……でも、帰れない  
悲しい……帰る嬉しい……はっ！ でも、ヨメ帰る、ヨメ離れる！ オレ悲しい！

……ううう、帰る、ヨメ嬉しい、でもオレ悲しい。

帰らない、オレ嬉しい、でもヨメ悲しい…… フン！

（葛藤の末、一旦部屋を出ていく。）

どうする！ どうする良い!? ううう……ううっ！

SE …ドアが開いて閉まる音

○トラック3終了

トラック4 (翌日夜明けのエロなしパート。オークさんの覚悟、迫る危機)

あらずじ…朝起きると、外で騒がしい音が。どうも、人間たちがオークの里に襲撃をかけてきたらしいのです。そこでオークさんは葛藤の末、あなたに人間に救出されて故郷へ帰るよう言います。オークさんの理性的な決断に驚きながらも、それならと外へ出ようとするあなた。しかし、襲ってきた人間たちの正体は、要人のあなたを助けてくれるどころか、命までも奪いかねない、敵国の勢力だったのです！

SE ..外でオークと人間軍が戦をしている音(ここから。フェードイン)

【位置…正面やや右 距離…やや近】

(主人公を起こす。若干テンションが低い)

おい……おい。起きろ。ヨメ、早く。起きろ。

SE ..主人公が起きる音

【位置…正面 距離…やや近】

人間、来る。 そうだ……人間来る。 ヨロイ、武器、たくさん。 馬、たくさん。

……オマエ、助ける。

(主人公、驚いて聞き返す)

(少しでも悲しそうながらも語調強く返す)

……そうだ。 人間、オマエ助ける。 オマエ、前の家帰る。 嬉しい。 だから、行け。

（主人公「本当にいいの？」）

（悲しみを押し殺しながら、しかし気丈に）

……いいつ！……本当だ。オーク強い。悲しい我慢できる。だから、涙出ない。

でも、人間弱い。悲しい我慢できない。だから涙出る。

（全部正直に打ち明ける）

……オレ悲しい。でもオレ、オマエ嬉しいの方が、いい！だから……

SE .. 外でオークと人間軍が戦をしている音(少し大きくなる)

【位置…右やや前 距離…中(立ち上がる)】

（覚悟を決めた様子で）

……外見ろ。人間近い。オレ、ここ離れる。……オワカレ。

SE .. 主人公が戸口まで歩いていく音

（主人公、恐る恐る外を見るが、敵国の人間に気づき、急いでドアを閉める）

SE .. ドアを少し開け、すぐに閉める音

【位置…左やや後ろ 距離…やや遠】

（主人公の不可解な行動に困惑）

……どうした？

（主人公、走り寄って抱き着く）

【位置…正面 距離…やや近】

うおっ!? なんだ、どうした! なんでこっち来る!?

（主人公「あれは敵国の軍で、わが国と覇権争いを……」）

……テキ、コク？ ハケン、アラ、ソイ……っ、難しい言葉やめろ！

オレ何するいい！ それだけ言え！

（主人公、では守ってほしいと言う。）

（かっこよくて頼れる返事）

……わかった。オマエ、ここいる。動くな。

SE .. ドアを破壊し、兵士がなだれ込んでくる音

（威嚇するような怖い声と、唸り声）

【位置…正面 距離…中（主人公を背中にかばいながら）】

人間……！ フンッ……これ欲しい、だから来た？

SE .. 兵士が一斉に剣を構える音

……！

（兵士に一斉に切りかかれるが、主人公をかばって耐える。ダメージボイス）

SE .. 一斉に切りかかれる音

ううっ！ ……ぐううっ……!! ダメ……これ、オレのっ……!!

（力を振り絞る）

……オレのだっ、触るなあッ!!

SE .. オークさんが戦う音



【位置…正面 距離…遠】

（魔物の素の部分を丸出し、怒りの咆哮）

オオオオオオ——ッ!!

SE…効果音フェードアウト

○トラック4終了

トラック5 (怪我したオークさんとイチヤイチヤ、体格差正常位)

あらずじ…オークさんを含めたオークの村の奮闘によって、なんとか危機は去りました。  
体中傷だらけで気を失ってしまったオークさんを、厳しい教育で多少医学の心得があつた  
あなたは、ありあわせの植物や道具を使つて懸命に手当てします。そのおかげか元気に意  
識を取り戻したオークさんは、早速あなたに発情。あの出来事で彼女のかっこいい姿にす  
っかり惚れてしまったあなたは、誘われるままにオークさんに覆いかぶさり……。

SE ..むしろが動く音

【位置…正面 距離…やや近(寝ているベッドのすぐ横に主人公)】

(意識を回復)

……ん……、ん……。

……。おお……？

(意外と元気に起床。飛び起きる)

おお……おおっ……！ ヨメ！ ヨメ、生きてるっ……！ はあ……！

SE ..オークさんが起きようとする音

(主人公「まだ傷だらけだから、起きない方が……」)

(自信満々に反論)

……傷？ 傷いい。傷ないオーク、腰抜け！ 傷たくさんオーク、強い！

ヨメ守るオーク、もつと強い！

オレ、ヨメ守る傷たくさんオーク！ いちばん強い！ フンッ！

(主人公「痛みはない?」)

(これも自信満々に)

痛み? **フン**、オレ強い、言った! 痛い我慢できる! いいな。

(ほら、ハグするぞ、とばかりに腕を広げる)

……おい。ヨメ。ん。

(主人公「ハグがしたいの?」)

……? たぶん、それ。はぐ。……早くしろ。

【位置::右 距離::近(ハグ)】

(ハグここから。頬ずりしながら、じゃれる獣のような唸り声)

んんっ……はあ……オレ、嬉しい……。 **フン**…… **フン**……♡

【位置::正面 距離::近】

(主人公「自分も嬉しい」)

(嬉しそうに)

! オマエ一緒? 嬉しい!?

【位置::正面 距離::やや近(少しだけ離れる)】

(しかし、主人公が泣いているのに気づき、心配そうに)

あ……でも、涙。悲しい?

人間、オマエ助ける違った。オマエ、家帰れない、だった。だから悲しい?

（主人公「違う。嬉しい時にも涙が出る」）

ん、悲し、くない？　すごく嬉しい時、涙出る……？

（困惑しつつも、安心したという唸り声。）

フン…そうか。人間難しい……。

（主人公に、「嬉しい顔」、つまり笑顔を教わる）

んあ？　嬉しい時、嬉しい顔する、だから……わかる？

嬉しい、顔……どうする？　にっ。……これ、いい？　そうか……。

（「笑う」ことを教わる。初めは真似するだけだが、亜人だからか、少しすると実際に笑えてくる）

……ワラウ？　へ、へっ。へ、へ……へへっ。お？　ふへへっ。

おお。笑う！　へへへっ……笑う楽しい！

（笑っているうち、楽しくなってなんだかムラついてくる）

……おお、わかった！　嬉しい、笑う！　笑う嬉しい！　へへっ！　ふへへへっ……。へ、へへ……♡

【位置…正面 距離…近（ふたたび近づく）】

（ここから、笑顔ができるようになる。勢いのまま、主人公を交尾に誘う）

フーツ……おい……♡ 交尾だ♡ 交尾、する♡　じゅるっ……♡

っ、はっ、早くしろっ♡　今、オレ、嬉しい！　楽しいっ！　フン！　だからっ、交尾だっ♡

（近づいた主人公をえいっという具合に抱き寄せ、主人公が上になるように寝る。）

ふんっ♡

SE　…ドサツと二人がむしろに倒れ込む音

【位置：左 距離：近(主人公が覆いかぶさる)】

っ…………へへっ…………♡ フーッ…………はぁ…………♡

【位置：正面 距離：近(主人公の上半身を持ち上げ起こす)】

(主人公の上半身を持ち上げ、舌を出してキスへ)

ん、ふっ…………んえ…………♡

【キス：ここから】

(トラック2とは打って変わって、相思相愛イチャラブ恋人キス)

えぷっ♡ れろれろれろ♡ ちゅぱっ♡

はむっ♡ にゅるにゅるっ、ちゅぽ♡

んちゅ、むちゅ…………♡ へへ…………♡ んっ…………ちゅ♡

【キス：ここまで】

(主人公のものを自分の股間へあてがう。)

フンッ…………♡ ん…………♡ こっ、入れる♡ 早く…………♡

(一気に挿入。オークの習性により即絶頂)

お♡♡っっ…………♡♡!! っ、っっ…………♡ ……っぐ、おおっ…………♡ ……♡

っひゅーっ、はぁ、はぁ、はぁぁ…………♡

(主人公、オークさんの絶頂が過ぎるのを待っている)

ふう…………ん、っ…………準備いい。 たくさん気持ちいい、しろ♡

【中くらいの早さのピストンここから】

っお……ん、ふっ……くっ、はあっ♡んう……へへっ♡……っあ、ん……気持ち……いっ♡っ

……気持ち、いじっ♡んっ♡

お、おお……♡ん、ふ……♡う、ふう……♡

ず、おあっ♡はっ、はっ……♡**フン**、っ……♡

(先ほど表情の概念を教わったので、主人公の顔を気にする)

ん、それっ、気持ちいい、顔？はっ、はん……っ、へへっ、へんな、顔♡ん、ふっ……

(ここで主人公、ちょっと仕返し。)

【強く深いピストンここから】

(少し驚くが、乱れすぎず耐える)

おっっ♡!? ん、ぐっ♡ず、おっ♡ふ、ぐっ♡っ、や、やる、なっ♡

んん……、っ♡ふんっ、ぐ……お♡おお……♡へへ、負け、ない♡

【強く深いピストンはここまで】

(オークさん、主人公を抱き寄せ、再びのディープキスへ。)

ん♡んれ……♡

【ディープキスここから】

(続いたままのピストンを、荒い息遣いで受け止めながら)

んむっ♡にゆるにゆるにゆる……♡ちゅば、れろれろ♡

れるれるれ、えむ♡にりゆにりゆにりゆ……♡んは……っ、はっ♡

【キスここまで】

（主人公、思わず「好き」とこぼす）

ん……、なんだ……っ？っは……ス、キ？んっ……

（ピストンに喘ぎながら、キョトン、といった感じで純粋に質問する。）

「好き」、うまい、食べ物……っ、のこと。言葉、教えた人間っ……ん♡、言った。

はっ、はっ……オマエ、オレ食う？……ん、う……♡

【ピストン一旦停止】

っ、ふう、はああ……♡

（主人公、自分なりに意味を説明する）

……違う……？……。

「好き」は……もつと欲しい、こと……。なくなる嫌、なこと……。……。

（少し間）

……オマエ、オレ、好き？

（主人公、答えは決まっている）

（ご満悦）

……♡  
フンン……♡へへっ♡

（主人公を抱き寄せ、有声囁き）

【位置…右 距離…近（抱き寄せて耳元）】

一緒♡オレ、オマエ好き♡

【先ほどよりやや早めでピストン再開】

お♡おお、おっ♡お……んっ、あ、は、はんっ♡ん、ん……

す、き……好きっ♡好きいい♡う、ああ♡

気持ち、いい、好きっ！オマエ、好きっ！全部、好きいい♡

……はああ♡オマエ、「好き」、言う、もっとっ、気持ち、いい♡

はあっ、お……♡ん♡好き……っあ♡好きいい……はっ、はっ……♡

【位置…正面 距離…近い】

【ピストンが早まる。絶頂へ】

お、おっ、おお、おおっ♡欲しいっ、はっ……子供、欲しいっ♡っく、あ、あっ♡

（主人公の腰に足を回す。いわゆるだいしゅきホールド）

腰、足で、抑えてっ、やるっ♡ん、っ！全部、ぜんぶ、出せっ♡っは、っ……♡

ぜんぶ、オレの、だっ……♡

あ、は♡ん、ん、あっ♡んうっ、んっ♡

っ、ん、お、お、おお、おおっ、お♡

【大きな一突きのうち、射精と同時に絶頂】

（気持ちよさのあまり脚の力を調節し忘れる）

うっ♡っおっ♡♡♡……

SE …あまり大きくない、リアル寄りの小さな「グキッ」



っっ……♡♡ んんぐっ、つくう……♡ っあ……♡

っ、ひゅっ、はっ、はっ、はああ……♡

【位置…左 距離…近(再び覆いかぶさる)】

う、っ……へへっ♡ 全部、貰った♡

はあ……オレの中、オマエ、たくさん……♡

(堪能する唸り声)

……フンン……♡ おい、もう一回……♡

(主人公、腰が痛くて動けない)

……？ どうした？ 腰……？ ……あっ！

(しまった！という唸り声のあと、慌てて。ただし耳に近いため、耳が痛くない程度で)

フンン！ 足のチカラ、弱いする忘れたっ！ よ、ヨメっ！

○トラック5終了

トラック6

（焼いた肉とエロなしパート。ずっと一緒のエピローグ）

あらすじ…腰の痛みがようやく引いたところ、昨日から飲まず食わずであるということを思  
い出したあなた。 オークさんに食べ物を頼みますが、調理という概念がないため、出て  
きたのは何の動物かもわからない生の肉や臓物。 これでは生きていけないと、あなたは  
オークさんに、とりあえず「焼く」ということを教えました。

【位置…正面 距離 中】

（息を切らして家に戻ってきたオークさん、焼いた肉を、主人公の前にドンと置く）

SE …肉をドンと置く音

んっ！ フン……。 はっ、はっ……。 肉、焼く……。 つ、できた……。！ ふう……

（主人公「ごめんね、火怖かったでしょ」）

SE …座る音

【位置…右寄り 距離…やや近（主人公の隣に座る）】

ん……。ふう。 そうだ。怖かった。火、家壊す。生き物壊す。森壊す。だから、オーク火怖い。

でも……。ヨメ、オーク違う。肉焼くしないと食えない。

肉食えない、ヨメ腹減る。 腹減る、悲しい。 だから、オレ怖い我慢した。へへっ。

（さあ食え、といわんばかりの唸り声）

……。 フン。 食え。

（主人公が食べるのを5秒ほど待つ。）

……。 うまい？ ……そうか……。

(主人公、 までも感極まっとうれし泣き)

(一瞬心配になるが、 顔をみてすぐ安心)

……あ、 涙？ でも……うん、 嬉しい顔だ。 すごくまい、 嬉しい？

(嬉しそうな唸り声。 もっと頼ってほしそうに)

……**フン**。 ヨメ嬉しい、 オレ嬉しい。 へへっ。 何かもつと欲しい、 ある？ 言え。

……ヤサイ？ ……ああ、 草。 でもオレ、 オマエ食える草知らない……。 オマエ、 わかる？

(立ち上がって、 それなら一緒に探しに行こうと提案。 自信満々に)

【位置…正面やや右 距離…中(立ち上がり、 部屋の出口へ歩き出す)】

**フン**……っ！ ヨメ！ 一緒に、 探し行く！

うん、 森危ない……でもオレ、 オマエ守る！ 違うオーク、 みんなオマエ傷つけるさせない！

(唸り声で他のオークに命令する)

**フン**ンッ！ **フン**フンッ！

SE ……複数のドスドスという足音

(オークたちがなだれ込んでくる)

(主人公びっくり)

へへっ！ 怖いオーク違う。 強いオーク言う、 みんな言う通りする。 オークの決まり。

オレ強い。 オレのヨメ守る、 言った。 だから、 みんなオマエ守る。

ついてこい！ オマエ、 オレ、 手握る！

SE ……主人公が立ち上がり、 小走りする音

(主人公、オークさんのところへ向かい、彼女と手を繋いで隣を歩く)

SE .. 扉を開け、外に出る音。森の環境音

【位置.. 右 距離.. やや近(手を繋いで歩く)】

(歩き始めて少しすると、前を向いたまま、オークさんが突然尋ねる)

……おい。 今日、明日、その次、その次、次の次、長い、長い……人間、言うどうする？

(教わった言葉を繰り返し、かみしめるような唸り声)

……「ずっと」……。 **フン**、そうか。「ずっと」……。へへっ♡

(主人公を抱き上げ、抱きしめる)

ん、ふっ……

【位置.. 右から正面、そして左 距離.. やや近から近(主人公を抱き上げ、抱きしめる)】

(耳元で有声囁き)

オレのヨメ。ずっと、一緒♡

○トラック6終了

あらすじ…あなたがオークさんと住み始めてしばらくたったころ。あなたの知識と、オークさんの努力のおかげで、彼女の語彙も少しずつ増えつつあります。椅子に座ったオークさんの上にあなたが座り、後ろから優しく抱かれながら、ただ他愛ない話をする……今日も二人はそんな幸せなひとときを過ごします。特に今日は、オークさんから嬉しい報告があるようで……？

(オーク村でのひととき。膝の上に座った主人公に、嬉しそうに話す。途中から収録という体。耳元なので、ボリウムが大きくなりすぎないように)

【位置…右後ろ 距離…近(膝の上に座った主人公を抱きかかえながら話す)】

……へへっ、そうか！  
フン♪

オーク言葉ない。でも、優しいオマエみんな仲良くできる！オレも嬉しい！

(言葉といえば、と思いだしたように)

うん！へへっ……あ！そうだ、言葉！おい、ヨメ！オレ、数字覚えた。数えるできる！

(主人公、やってみてほしいと言う。)

フンッ！もちろんだ！いくぞ……

ゼロ、イチ、ニ、サン、ヨン、ゴ、ロク、ナナ、ハチ、キュウ、ジュウ！どうだ！

……そうか、すごいか！へへっ！オレの指、ジュウある！オマエの指もジュウ！一緒！

(主人公、逆から数えてほしいという。)

……ん、逆……？反対、ってことか？  
フンン、難しい。

んー、……ジュウ……キュウ、ハチ……。

（主人公、もっとゆっくり、耳元で言っしてほしいという。）

……なんだ？ もっと、ゆっくり？ 耳元、で……？ ふむ……。

【位置・右距離…近（耳元でささやく）】

（有声囁きここから。かなりゆっくりカウント。）

はー……♡ ……じゅー……う……。 ……きゅー……う……。

（主人公、耳を舐めてほしいという。）

（オークさん、いぶかしみつつも従う。主人公が自慰を始めていることには気づいていない）

ん？ 耳舐める？ 数える、しながら？ ……？ れえっ……

【耳舐め開始】

耳舐め部分の文字はイメージであり、実際に文字通り聞こえる必要はありません。息は鼻で。「じ

ゆるっ」という吸入音が入らないようにお願いします。」

れえ……ろっ、れえ……ろっ、ぺろ、ぺろ、ぺろ、ぺろ……

はー……ち……。

れろお……っ、れろお……。 れろ、れろ、れろ……はー……♡

なー……な……。

【耳舐め一旦停止】

（さらに舌を出しかけたところで、主人公が「もっと隅々まで」という。）

れ……ん？ もっと、スミズミ？ うーん……。

【カウントと耳舐めを再開】

（耳の溝などをもっと細かく舐めるように）

【位置…左後ろ 距離…近（左右を入れ替え）】

れ…れえろ、れえろ、れろれろ…ごしごしごし…♡

ろー…く…。

ぺろお…ぺろ、ぺろお…にちや、ごし…ごし…♡

ごー…お…。

【耳舐め一旦中断】

（主人公が小刻みに震えていることに気づくが、自慰をしていることには気づかない）

【位置…右後ろ 距離…近（左右を入れ替え）】

ヨメ、どうした…？くすぐりたい？…続けていい？わかった…

【耳舐め再開】

にゆる…れろお、れえろつ、ごしごし…ごしごし…♡

よー…ん…。

【耳舐め中断】

（主人公、耳の中までやってほしいと言う。）

【位置…左後ろ 距離…近（左右を入れ替え）】

…ん？中、も…舐めるのか？れ…

【耳舐め再開】

(耳の穴の中を(意図せず)責めていく)

れろっ……れ……にゅぷ、にゅる、にゅる……にゅろにゅろ……っ、  
にゅる……にゅらにゅらにゅら……にゅぷにゅぷ……

さあー……ん……。

……にゅるっ、れりゅっれりゅっ……びしびし……♡

はー……♡にゅぷ、にりゅにりゅにりゅにりゅ、ぎゅぎゅぎゅぎゅ……♡

……にゅ……い……。

れぷっ、ぬりゅ、ぬりゅ、ぬりゅ……れろれろ……りゅろりゅろ……

りゅぷりゅぷ……にゅる、にゅる、ごしごし、にゅるにゅる……♡

【耳舐め中断】

(さすがにちよつと心配になる)

【位置…右後ろ 距離…近(左右を入れ替え)】

お、おい、ヨメ？ 息も、早い……。 本当に、大丈夫？

(主人公、耳舐めが気持ちいいだけだから大丈夫、と言う。

(心配しながらも、続ける)

気持ちいい、だけ……？ フン……。 苦しかったら言え。 いいな？



【耳舐め再開】

（心なしか耳穴責めが少しだけ激しくなる）

ずぶっ……ずりゅ、ずりゅ、ずりゅずりゅ、にゅろにゅろにゅろっ……

にゅらにゅらにゅら……ごしごし……れろれろれろ……♡

いー……ち……

べろんっ、べろべろべろっ……れるれるれる……にゅぷ……

にりゅにりゅにりゅ、にゅらにゅらにゅらにゅら……はー……♡

ぬりゅぬりゅぬりゅっ……ごしごし、ごしごし……れろれろれろ……

ぜえー……ろっ！

（できた！と言いかけて、主人公がびくんとしことに驚く）

よし、でき——うおっ!? ど、どうした!?

【位置…右後ろから正面 距離…近から中(立ち上がり、主人公の正面へ)】

（心配で立ち上がり、主人公の正面へ。）

っ……ヨメ、大丈夫……

（やっと、主人公が自慰の末射精したことに気づく。）

ああっ！お、オマエっ！な、なんでっ……！ なんで、出したっ！

（唸り声のあとぶんぶん怒る。怖すぎないように）

フンンン……おい……っ！オマエ、オレのヨメ！オレの中じゃないところ、出すダメっ！

(出たものをもったいなさそうに見つめながら)

はあ……うう……。これ、オレ気持ちよくない……。

(こちらに向き直り、威圧感のある宣言)

フンン……おい。今日の夜、いつもより少ない、許さないぞ。いいな！

○おまけトラック終了

台本ここまで

せりふ部分 6,236 文字\*

うち、黄色網掛け部分 164 文字

\*「お」「お」などは Word 上だと 2 文字とカウントされますが、1 文字と数えています。

また、ルビのある漢字は Word 上だとルビを含めてカウントされます(例:「お坊<sup>ほう</sup>ちやま」は Word 上だと 7 字)が、ルビを除外して数えています。